

研修テーマ	「外来害虫クビアカツヤカミキリの生態と防除」 クビアカツヤカミキリの被害を拡大させないために	参加者	埼玉県支部 24名、東京都支部 58名、 他府県支部 34名、一般 3名
講師	加賀谷悦子 氏 独立行政法人森林研究・整備機構森林総合研究所 森林昆虫研究領域穿孔性昆虫担当チーム長	場所	東京都文京区本郷 4-15-14 文京区民センター
資料	・外来害虫クビアカツヤカミキリの生態と防除 ・解説 侵入害虫クビアカツヤカミキリ <i>Aromia bungii</i> とサクラの被害	記録	田窪隆彦
目的	この夏特定外来生物に指定される見通しの、クビアカツヤカミキリによるサクラ並木や果樹への被害が各地で報告されており、今後急速な被害拡大が懸念されている。その生態並びに防除方法を学び、早期発見と根絶に向けた対策立案の方法を習得する。		

研修内容

侵入経路と現分布域、形態と生態、被害木の探索法、防除方法、根絶法の研究、自治体の取り組みについて、パワーポイントおよびサンプル展示を使用した講義。

2012年に愛知県で初めて被害が確認されてから5年、現在7都府県に被害が拡大しているという実態を受け、根絶に向けての対策として今何が重要であるか、また樹木医に何が求められているかなどについて学んだ。

加害様式の違い、フラスの色、量、状態の違いなどにより、コスカシバ被害との判別は可能であるが、冬期ではなかなか同定することが難しいとのことであった。



講義風景



講義風景

根絶させるためには早期発見、適切な駆除が重要であるが、そのためには自治体、専門機関と市民、樹木医が連携して、被害情報を共有して行くことが大切であるとのことであった。



サンプル(穿孔痕)



サンプル(成虫・フラス)

最後に、生活環について、バラ科以外の被害状況について、菌類による駆除や性フェロモンの研究成果について、ロビンフッド（登録農薬）の効果について、冬期樹木診断時の同定方法について等の質疑応答があった。